

屋久島町エコツーリズム推進全体構想の検討状況

1. 屋久島町エコツーリズム推進全体構想の再検討について

屋久島町エコツーリズム推進全体構想は、平成21年8月3日に第1回全体構想策定部会から協議が行われ、特定自然観光資源「大株歩道周辺の自然植生」への立ち入り人数の上限数設定が含まれた屋久島町エコツーリズム推進全体構想が平成22年11月19日に開催された協議会総会において承認された。

しかし、特定自然観光資源「大株歩道周辺の自然植生」への立ち入り人数の上限数を設定する、屋久島町自然観光資源の利用及び保全に関する条例が平成23年第2回屋久島町議会定例会に提案したが否決となり、エコツアー法による認定申請が困難となった。

その後、平成23年8月19日に開催した平成23年度屋久島町エコツーリズム推進協議会で、改めて人数設定の調整を諮ったものの承認が得られなかった。

屋久島町エコツーリズム推進協議会は、平成20年4月のエコツーリズム推進法の施行により、平成21年に法定協議会として発足し、所掌事務にエコツーリズム推進全体構想の作成と変更を位置づけていることから、平成27年9月に全体構想策定部会を再設置した。

平成26年度に策定した屋久島町観光基本計画に、エコツーリズムによる世界自然遺産屋久島の価値の創造と観光立町を基本理念に位置付け、さらに、平成30年2月に開催した全国エコツーリズム大会 in 屋久島では、全体構想の策定の取り組みを行うことを決定した。

さらに、永田浜におけるウミガメ産卵観察を条件付き参加させるルールに対する反発が継続的に生じている。

このことから、エコツーリズム推進の目的と基本方針、エコツーリズムを通じた島民が参加する地域づくり計画として屋久島ルール等を改めて精査・決定するため、令和元年9月30日の屋久島町エコツーリズム推進協議会総会において、全体構想策定部会を再構成し、同年12月5日に第1回目の会議を開催した。

全体構想策定に係る経緯

年月	経緯
2004 (H14) 年	屋久島地区エコツーリズム推進協議会発足
2009 (H21) 年	屋久島町エコツーリズム推進協議会に移行
8月	全体構想策定部会で協議開始
2010 (H22) 年 11月	屋久島町エコツーリズム推進全体構想 (素案) 承認
2011 (H23) 年 6月	屋久島町自然観光資源の利用及び保全に関する条例否決
8月	修正版屋久島町エコツーリズム推進全体構想 (素案) 不承認
2015 (H27) 年 9月	全体構想策定部会再設置
2019 (R1) 年 9月	全体構想策定部会再構成

12月	第1回全体構想策定部会
-----	-------------

2. 第1回全体構想策定部会の検討状況

第1回会議では、令和2年11月までに取りまとめる検討スケジュールを共有し、規制だけでなく、観光利用にも重きを置いた計画を目指すこと、また、特定自然観光資源の候補となりえる永田浜のウミガメについて、ウミガメ保護利用専門部会で利用調整案などを検討すること等が決定された。部会長は、屋久島水域ガイド連盟の満園茂氏に決定した。

屋久島町エコツーリズム推進協議会全体構想策定部会名簿

(敬称略)

所属	氏名
屋久島町区長連絡協議会	外 蘭 正 流
屋久島観光協会	内 村 友 也
	大 石 孝 子
屋久島観光協会ガイド部会	中 馬 慎 一 郎
	満 園 純 平
屋久島山岳ガイド連盟	笹 川 健 一
屋久島ダイビング事業者組合	
屋久島水域ガイド連盟	満 園 茂
	木 原 信
屋久島町商工会	松 本 和 則
屋久島森林組合	牧 実 寛
種子屋久農業協同組合	岩 川 原 造
屋久島漁業協同組合	
林野庁九州森林管理局 屋久島森林管理署	西 純 一 郎
林野庁九州森林管理局 屋久島森林生態系保全センター	黒 木 興 太 郎
	山 部 国 広
環境省九州地方環境事務所 屋久島自然保護官事務所	木 滑 黄 平
鹿児島県熊毛支庁 屋久島事務所総務企画課	田 中 省 吾
鹿児島県環境林務部自然保護課	木 浦 哲 郎
鹿児島県観光交流局観光課	迫 田 憲 治
公益財団法人屋久島環境文化財団	辻 真 喜
屋久島町 観光まちづくり課	川 東 眞 稔
屋久島学ソサエティ	小 原 比 呂 志
	田 平 拓 也